第2回 熊本市部活動改革検討委員会

<議事録>

日時：令和5年（2023年）1月31日

場所：熊本市役所議会棟2階 予算決算委員会室

○次第

- 1 開会
- 2 意見交換会等
文化庁 文化部活動の地域移行に関する検討会議 座長代理
信州大学 教育学部 齊藤忠彦 教授
- 3 協議
 - (1) 部活動アンケートの結果について
 - (2) 第1回熊本市部活動改革検討委員会における意見等について
 - (3) 部活動のこれまでの変遷等について
 - (4) 小学校部活動における地域移行の検証について
- 4 諸連絡
- 5 閉会

○議事録

1 開会

【坂下委員長】

改めまして、皆様こんにちは。昨年末の第1回検討委員会では、委員の皆様から本当にたくさんのご貴重なご意見をちょうだいいたしました。心より御礼申し上げます。

本日は、文化庁「文化部活動の地域移行に関する検討会議」座長代理 信州大学教授 齊藤忠彦先生にご講話をいただきます。

次いで、第1回の会議におきまして、委員の皆様からちょうだいしましたご意見、ご質問に対し、事務局のほうから説明をいただく予定にしております。

委員の皆様と情報を共有し、議論を深めてまいりたいと思っておりますので、どうぞ本日もよろしく願います。

それではまず、前回ご欠席の平木委員と首藤委員に自己紹介をしていただきたいと思います。よろしく願います。

【平木委員】

はじめまして、平木と申します。芳野中学校の校長をしております。

本日は、熊本市の文化部活動振興会の世話係校長ということで、この席に呼ばれているのだと思っております。どうぞよろしく願います。

【首藤委員】

皆さんこんにちは。サッカーチーム「ロアッソ熊本」から参りました首藤と申します。初回の会議を欠席しまして申し訳ありませんでした。

ロアッソ熊本は、プロサッカークラブということで、皆さん認識いただいているかと思うんですけども、小中高年代の選手育成、スポーツの普及活動・環境整備、スポーツの機会創出というものに取り組んでおります。今回、そのような視点で、お話し合いに貢献できればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

2 意見交換等

【坂下委員長】

次に、信州大学教育学部の齊藤教授とのオンラインによる講話及び意見交換会を行います。齊藤先生よろしいでしょうか。

それでは、文化庁「文化活動の地域移行に関する検討会」座長代理 信州大学 齊藤教授に、文化庁等での検討状況や、齊藤教授が考える今後の部活動のあり方について講話をしていただきます。齊藤先生どうぞよろしく願いいたします。

【齊藤教授】

講話 ～省略～

【坂下委員長】

齊藤先生お忙しい中本当にありがとうございます。

この後は、意見交換会に移らせていただきます。最初に、検討委員会メンバーから事前に質問があった事項について、ご回答いただければと思っております。齊藤先生よろしいでしょうか。

【齊藤教授】

長野県の状況はどうかと話をいただいていたかと思うのですが、長野県は、まだこれからで、県としての検討会議がスタートするのは2月からという話を聞いています。参考にならず、申し訳ございません。

【坂下委員長】

ありがとうございます。それでは委員の皆様から、せっかくの機会ですので、齊藤先生のほうに御質問があられる方お願いいたします。

平木委員お願いします。

【平木委員】

私は芳野中学校の校長しております、平木といたします。

文化部活動の振興会の関係で今日は参加しているんですけど、私は、部活動の問題は、広げて考えれば、まちづくりとかの解決にもなるのではないかと、多様性への対応も、どんどんでき

るんじゃないかというふうに、プラスに考えている1人です。

校区は大変広いのですが、大変人数の少ない学校で、地域のコミュニティセンターという公民館のようなものがあり、その協議会という会議に、年間数回出席しております。2年間コロナ禍で中止となったコミセン祭りというのを、今年はぜひともやろうということで、いろんな策をみんなで考えました。話し合いを何回もして。その中で、フォトコンテストとか、小中学校の作品展などの企画が少しずつ進んだわけです。ほかにも、神楽とか、絵馬修復とか、実は、学校を媒介として地域とつながりを持ちながらやっております。

そういうのは、美術室であったり、音楽室であったりというところが、一つの媒介というか、発信の場所といいますか、そこで、同じ西区の崇城大学という芸術学部を備えた大学がありますので、例えば絵馬修復については、そちらの日本画の先生に入っただき、絵馬を実際に最初は写真で私が撮ったもので見ていただいて、どのぐらいの修復が可能か話をしますと、中学生もぜひ入れて、修復をやってみたらとか、そういうアイデアがどんどん出てくるんです。

地域の方から依頼を受け、そのような絵馬修復をしたり、また、神楽のほうは、大変、古くから伝わる芸能でございまして、地域の方が、地元の小中学生に、伝授しておられます。朝ちょっと早く来て子どもたちが音楽室を借りて、笛の練習をしたり、太鼓の練習をしたりします。

ある意味、部活動ではないけれども、そのような地域との関わりの中で、大変有意義な活動が出来ている。ある意味発展的かなと、地域自発的な活動かなと思っています。ただ、地域の方が年配であられたり、学校も小規模なものですから、全教科の教員がいるわけでありませんで、そういう教科の担当、専門性のある教員がいないと、その媒介は出来ないという状況もあります。

でも、例えば公民館やコミュニティセンターを行政が、会館を貸して下さったり、コミセンまつりを1年間の起点として、活動を広げることで文化部活動あたりも、もっと、枝葉が広がっていくかなという可能性を私は、つい先日感じたところでした。先ほど先生からの資料の中の、開いてすぐのところ、当面の課題の中で、活動場所の確保というものが出ております。その時に先生がおっしゃった、例えば音楽室の貸出しの問題であるとか、もっと公民館等を使えないかななどをお話ししてくださいました。

私も、働き方改革の観点で、校長として、人材育成、それから、先生方の心理、精神面でも、身体的に無理をさせないことはとても大事で、良い仕事をしてもらうためには、やはり働き方については、きちんと労働時間を守らないと、良い働きにはなっていないので、どうしても部活動の地域移行を進めるのが大変大事だと思っています。

やはりそのときに、行政の方たちとの連携を柱にしながらか地域の方をどんどん巻き込んでいくというのは大事だと思っています。美術はオンラインでも指導が可能なこともありますが、音楽の場合には吹奏楽の楽器の管理あたりがとても大きな課題になってきますので、音楽室から例えば公民館のある部分を、活動場所として、機材もそちらに預かっていただくというような事例があれば御紹介いただきたいなと思います。

他にも、伝統芸能等で地域移行が進んだ事例があれば、御紹介いただければと思います。

【齊藤教授】

ありがとうございます。とても貴重なお話をいただきました。特にまちづくりというところで、非常に重要なキーワードになるなと思ひまして、お話をお伺いしました。現実的な問題として、その活動場所の件ですけれども、文化系で例えば吹奏楽では、公民館等で鳴らすと隣に普通の家

が建っている場合もあつたりしますので、そう考えると、現在行われている学校の音楽室などの学校の施設を使えることが望ましいのではないかなという話も出ています。その場合、学校では、例えば音楽室の場所が、校舎の3階にあるとか、または校舎の一角にありどうしても、その教室だけを貸すということが、休日は厳しいという問題も生じてきます。そういう場合に、例えば、音楽室に直接入ることができるような、専用の通路といますか、校舎の図面から、ここを通過して教室に入るみたいな工夫も必要かと思います。

事例としましては、文化部系につきましては、本日はご紹介出来ませんがという事例の中に、地域の伝統芸能を含めての、事例もあつたかと思いますが、ご覧いただければと思います。

以上です。

【中川副委員長】

スポーツ関係のNPO法人代表の中川と申します。

当面の課題という話をお聞きしましたが、その前にスポーツ全体、スポーツ社会をどう考えていくのかという、これからのスポーツ社会のあり方についての議論というのは、あつたのかどうかというのの一つと、もう一つは、多様性と子どもが自ら進んでという形を具体化した、部活動のあり方についての議論はどうされたのか。それから、ゆるスポーツとあるんですけども、もう少し具体的にはどういう、スポーツのあり方を言うのかという三つについて教えていただければありがたいなと思います。

【齊藤教授】

後半のご質問から、ゆるスポーツについて私もそんなに詳しくはないのですが、どちらかというレクリエーション的な要素を含むような活動で、無理がないスポーツ活動というふうに聞いております。

多様性につきましては、多様性に対応するためにはやはりそれなりの選択肢が多くなければいけないという問題も生じてくるかと思います。ですから、選択肢を多くするというのをやはり一つの学校ではなかなか難しいということになりますので、それを実現するためには近隣の学校で、複数の学校で一緒になり、部活動の種目といますか内容を、少し多くしていくというような、そのような形もあるかということです。その辺りについて、検討会議で一つ一つの内容について詳しいところまで、時間をかけて検討出来てない部分もあるので、今お話をさせていただいていることは私自身のイメージではあります。

あとすいません、1番最初にご質問いただいた内容について、ちょっと聞き取りが出来なくて申し訳ございません、もう一度最初のご質問、お話しいただけますか。

【中川副委員長】

普通、部活動の地域移行という、当面の課題をどうするかというのが1番先に出てくる話かなと思うんですけども、私としては、もっとその前にスポーツ全体、社会としてスポーツをどういうふうに考えていくのかというのがあって、その一部の、ライフステージの中の中学校の部活動の問題という捉え方を考えているのですが、スポーツ庁、または文化庁でも議論されているのではないかなと思うので、教えていただければということです。

【齊藤教授】

ありがとうございます。確かに当面の課題というよりも、そもそも、この日本の学校教育において、この長年行ってきたスポーツや文化部で対応していた部分が、欠落してしまう可能性もあるような論議ですので、それをどのように社会で補うかというところですよ。その話も、確かに出ています。

キーワードとしては地域に移行し、学校と地域で連携する中で、今まで対応してきた分を補うというような話がメインとなっていたように思います。ですから、本当はそのどういう方向で、どういう形を目指すのかという、大きく言えば日本の教育の将来像、ここを、本当はもう少し時間をかけて論議しなければならないというのが、確かに重要なことだと私も考えます。

すいません、お答えが十分出来なくて申し訳ないのですが、そのような状況でした。

【坂下委員】

もうそろそろ時間にはなるんですけども、どうしても、お聞きしたい質問等がございましたら、本当にせっかくの機会でございますので、お願いいたします。

【月足委員】

一般公募のほうから参加させていただいてます。よろしくお願ひします。

先生のお話で、最後のほうに、地域に移った場合、放課後の子どもたちの声が聞こえなくなるかもしれないという点と、生徒指導の面でも不安があるとおっしゃったのが、ちょっとひっかかったもので、どういった面でそういうふうに移行した場合、不安が出てくるのかというのを具体的に教えてほしいなと思ひました。

【齊藤教授】

そうですね、放課後の時間の使い方につきましては、様々な方法があると思うのですが、中学生は非常に体を動かせる年代でもあり、活発なお子さん、たくさんいらっしやいます。ですから、その中学生の時ならではのエネルギーを、いわゆる放課後の時間に体を思いっきり動かしたり、そして放課後の時間に声を出したりという、そういう活動の場があるからこそ、中学生のある意味でエネルギーを発散というか、発揮できる場があると思うのですが、そういう時間が十分でなくなると、その有り余ったエネルギーをどこで発散するのか。古い時代の話になりますが、放課後に、目的もない子どもたちが、学校で少しよからぬ行動をしてしまったような時代もありました。荒れていた時代です。そういう時代もありましたので、いわゆるエネルギーが別方向に向いていくことがないように、子どもたちの生徒指導上のことも考えていく必要があるのではないかなということでもあります。

でも、時代も変わりましたので子どもたちの姿も、良い形でエネルギーを発散、またそれを発揮することができると思ひたいかなというふうにお願ひしております。すいません、いい言葉でお伝えられなくて、よろしいでしょうか。

【藤川委員】

子ども琴体験教室をやっております藤川と申します。

小学生の時に、スポーツ系か文化系かと、何かをとれば何かを捨てなければならないというよ

うことではなく、どちらも部活でできるという可能性を広げるような、やり方があるということをお教えをいただいで、大変広い視野で見てくださっているのが、とても勉強になりました。

お聞きしたかったことが、2点ありまして、実証事業という言葉が出ていましたけれども、実証事業というのは初めて聞きまして、実証という言葉の、概念というか、それをどんなふうに使われているのかというのが一つと、もう一つ、スポーツ庁と文化庁の予算の話がありましたが、今後、こども庁ができることにより、これが、また、予算的に増えていく可能性があるかこの2点お聞きしたいと思います。

【齊藤教授】

実証事業は予算案のところにも書かれています。こんなことをやってみたいという申請を、またはこんなことを既にやっていると、ついてはこんな予算が必要だから、ぜひ予算化をしてもらいたいというようなプランを立てまして、それを申請して、それを検証する、そのために予算をつけていただくということになりますけれども、そういうものを実証事業で行ったものというふうに呼ばれることがあります。でも予算化等にも限らず、それぞれの地域で行っている事例は、全て実証事業の対象となるかと思えます。これからやろうとしている試み、これは全て実証事業というふうに言われていくかと思えます。

あと、こども庁のことは、すいません私もちょっと、把握しておらずそれに伴ってどういう予算が変わるのか私の情報はなく、お答えできずにすいません。

【坂下委員長】

委員の皆さんありがとうございます。齊藤先生には、時間を超過して、いろいろご指導いただいたところがございます。本当に、これまでの経過そして、これからの新しい時代へ向かってのお考え等も聞かせていただきまして本当にありがとうございます。

それでは、時間となりましたので、意見交換会を終了いたします。齊藤先生、本当に本日は貴重な時間いただきましてありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

3 協議

(1) 部活動アンケートの結果について

【坂下委員長】

本日の協議は、一つ目が部活動アンケートの結果について、ご報告いただきます。

二つ目、第1回検討委員会における意見等について、事務局のほうから説明をいただきます。

三つ目としまして、部活動のこれまでの変遷等について、そして四つ目が、小学校部活動における地域移行の検証についてということになっております。

それぞれに、事務局から資料を説明していただき、その後に委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

それでは、(1) 部活動アンケートの結果について、事務局より説明をお願いいたします。

【松永学校改革推進課長】

資料説明 ～省略～

【坂下委員長】

ご説明ありがとうございました。前回も、アンケート説明いただいたところでございますが今回補足でいろいろ整理していただいております。ご意見、ご質問がある方はお願い致します。

【清田委員】

64ページについて質問させてください。平日の部活動のほうで負担だと思う項目を教えてくださいということで、中学校の先生方は練習指導と、部員生徒指導、部員保護者対応というふうにあるんですが、練習指導というのは、時間をその分取られるということなのか、この部活動が地域に移行してしまっただけで先生たちの手を離れたときに、子ども達の生徒指導と、保護者の対応が減るのかどうかというのはちょっと疑問があります。

部活がなくなると、子どもたちは先ほど先生が言われたとおり、そのエネルギーをどこで発散するかで、やはり外で悪い事をするような子達も出てきた時に、生徒指導だったり保護者の対応をまた先生達の手を煩わせることになるんじゃないかなと思うのですが、この辺をどういうふうに今後していかれるのかなと疑問に思いました。

【松永学校改革推進課長】

学校改革推進課でございます。

負担感のところですけども、例えば練習指導について、専門的な種目を教えることができる先生については、精神的な負担感というよりは時間的な負担感というものがここで出ているのかなというふうに思います。

一方で、自分の専門でないものを教える先生については、時間的なものに加えて精神的な負担感というものも出てきていると思います。ここの設問では、そこが詳しく見えない設問にしておりますので申し訳ございませんが、他の働き方改革に関するアンケートでは、時間の部分と精神的な負担の部分の両面をみるようなアンケートをとっております。

ですので、働き方改革はその両方に対応していくというのが私達としては非常に大事だというふうに思っています。労働時間の部分だけをみると短いけれども精神的な負担が大きいというものも多々ございますので、その点に留意する必要があるかと思えます。

そういった意味でいきますと、保護者との連絡調整や、保護者対応の部分は、もしかしたら時間というよりは精神的な負担感とか、意義の部分、余り意義が感じられない部分、連絡調整だと、様々な事務作業が発生しますので、その手間の部分などがあると、精神的な部分でももう少し効率的に出来ないかとか、そういった御意見が出てくることはあるかと思えます。これは、部活動指導に限ったという話ではなくて、これまでの働き方改革のアンケートでもあったことですが、意図が不明な調査であったりすると、従事した時間が短くとも、精神的な負担感が先生方は非常に大きいということが出ておりますので、そういったことを現場の先生方にもお聞きしながら進めていけたらと思います。

まずは、私のほうからは以上でございます。

【星田指導課教育審議員】

指導課でございます。先ほど部員の生徒指導、部員保護者の対応というのがありました。この

件に関しては、現場の校長先生方も、あるいは経験された方もいらっしゃると思いますので、ご存じだと思いますけども、部活動だけではなくて、いろんな生徒指導が学校では対応されています。部活動での生徒指導というか、いろんな様々な問題点あたりも、部活動を担当されてる先生方もうまく対応されているというのも現状です。ただ、中学校では苦勞されてるというのも現状だと思います。

後から、小学校のことも話をしようと思ったのですが、小学校の地域移行に関わる、社会体育になっているわけですけれども、そこでのトラブルが、最近、結構教育委員会のほうに上がってきております。学校内の部活動ではないので、地域でのトラブルですよね。地域の活動でのトラブルで、指導者と子どもたちのトラブル、児童のトラブル、それに、やはり学校側が入らざるを得ない現状が幾つか見られて、かなり苦勞されている学校は確かに幾つかありますので、そういうことも含めてのトラブルというか、心配事がここに出ているのかなというふうに思っております。

以上です。

【平木委員】

今、ご質問があった内容についてですが、問 38 で連絡調整というので、14.3%中学校の先生方の値が出ていますが、保護者様も、子どもたちの指導に対して、価値観がそれぞれあられると思います。楽しく活動してほしいというものと、技術的にもっと上手になってほしいというものと、そういう価値観の違いです。先ほど、地域部活動になった時に、幾らお払いになりますかという問いにも、回答が 3,000 円のラインと 5,000 円のラインに二極化というか、少し分かれていましたよね。そのように価値観が違うので、その辺りの連絡調整というのは大変ではないかなと思います。そういった感じで考えていただけるといいのではないかなと思います。

あとは、部員の生徒指導については、学校部活動であれば、部活動を含めて教育活動として全体で考えます。いろいろその時々課題について、子ども達も困り感の中で、自己表現をしていますので、そこにやっぱり丁寧に関わっていくのが学校教育です。これは、部活動だけで出ているのではなく、普段の授業とか休み時間とか、いろんな活動で出ている部分の延長線上にありますので、長く関わらなければいけないとなると、先生方も負担ではないかなと思います。

以上です。

(2) 第 1 回熊本市部活動改革検討委員会における意見等について

【松永学校改革推進課長】

資料説明 ～省略～

【坂下委員長】

ありがとうございます。第一回の検討委員会でお出された意見に対する今後の対応についてまとめていただいております。ご意見、ご質問ございましたらお願いします。

～意見・質問なし～

それでは、議題の 3 点目に入らせて頂きます。部活動のこれまでの変遷等につきまして、事務局より説明をお願いします。

(3) 部活動のこれまでの変遷等について

【星田指導課教育審議員】

資料説明 ～省略～

【坂下委員長】

ありがとうございます。今ご説明いただきましたのは、部活動の学習指導要領上での取扱い、そして熊本県での、一時期社会体育に移行したその経緯につきまして、そして前回もご意見いただきましたが、部活動の意義、そして課題、それらをまとめてご説明いただいたところでございます。ご質問、ご意見をお願いします。

【坂本委員】

商工会議所の坂本といいます。今のご説明は何ページまでのご説明でしたか。

【星田指導課教育審議員】

93 ページまでです。

【坂本委員】

課題等まで説明されたということですね。

前回、学校部活動の教育的な意義というのを整理したほうがいいということをお願いして、整理をさせていただいていると思うのですが、前回、まさに熊本市はこのガイドラインで、地域移行ありきでやっているのではなくて、ゼロベースで、考えていくというようなお話の中で、だからこそ私は部活動の教育的意義というのを、改めて整理する必要がある、それは先ほど、副委員長が問題提起されたような、スポーツ全体に対して部活動は今までどういう効果があったのかとか、そういうことも含めて検証をちゃんとして、必要な積極的な意義というのを、1 回整理してみてもというようなつもりで言いました。それで、非常に意義がこれほどある、生徒にとって良いことがある、そして、保護者にとってもよい、教員にとってもよいということを整理していただいています。

問題点は、たった二つなわけですね。少子化という大きなそもそもの話、なかなか部活が成立しにくくなったという大きな問題。もう一つは、学校教員の働き方改革、これが問題点であるということからすると、ひとつめの、少子化の問題は非常に大きな問題で、地域連携をどうしていくとか学校連携で成立する、そういった事例が他にないとか、そういうのを調べていただきたいなと思ったんです。

働き方改革というのは、もうこれは部活を学校から追い出すということで解決すべき問題ではなくて、そもそも働き方改革はしなければならない。

働き方改革で一番今問題なのは、2024 年問題というのがありまして、トラックのドライバーが、いよいよその働き方改革の対象になるんですが、そうすると、今の物流の 3 割ぐらいがと止まるということです。そういう時に、3 割の物流やめますかということは決してしないんですよね、必要なのです。だから、そこには人員をどうにかして確保するという対応、それと効率化、どうや

ったら省力化してやれるかという、そういうことを検討しています。

そのことからすると、学校に学校部活動が必要だというような、こんな大きな意義がいろいろ語られていることからすると、まず、教員の働き方改革は別問題として、どうにかして学校部活動を維持するとかいうような方向での解決方法が必要なのではないかなと思います。

実は、部活動にかかっているマンパワーというか、労働時間というのを外に出したからといって、今受皿としての人手はないです。今、熊本の有効求人倍率は1.4を超えています。なおかつTSMCが来て、もうまさに人手が足りないという中で、外で、地域で、部活動のようなことを担ってもらった場合に、誰がするんですかという話です。そこに大きな経済活動としての要素が出るので、その仕事が生まれるというのは、我々経済団体としてはありがたい話ではある。しかし、実際受皿として、ちゃんとした、今まで学校の先生が担っていたような、そんな高度な部活動の経営ができるのか。専門的ではあると思うのですが、専門的ではあるとしても、そういう人員を確保できるのかというようなことが、非常に大きな問題としてある。

だから地域移行を前提として考える時の課題、まずはそもそも地域移行するのか、今ある問題としての少子化問題で、なかなか部活動がうまくいきませんねという話と、学校の先生の働き方改革の問題を解決するというのは、何か地域移行の課題と、今ある問題点というのは、ちょっと違うような気がします。

それと、学校部活動の内容が変わってきて、楽しい部活にしましょうみたいなアンケートがあるとしても、我々今まで我が子の経験からいうと、部活動で学んだ一番大きなことは、一番好きなことを一生懸命やって、負けるという経験、一生懸命やってもレギュラーになれずに補欠であるという経験、それでも何かをやるという経験というのが、非常に大きかったなと思っています。そういう形で社会に出ていくという、学校教育の中で一番ちょっとなかなか補えない部分というのが部活動で、本当に実行出来たのではないかという、そういうところは、部活動を地域に移行するという前提に立つのかどうかも含めて議論していただければと思っています。

以上です。

【平江委員】

今ちょっといいヒントだったかなと思ったもので、発言させていただきます。この地域に、例えば出すという話をする時に、今とてもタイミングが悪いです。なぜかといったら、コロナで、3年間地域が沈んでるんです。そういう中で、この話を進めていくことに対しては、非常に難しいなと思いながら聞いていました。

私は田舎のほうに住んでいるんですが、祭りがもう3年ないんですよ。多分お分かりだと思うんですけど。そういう状況で、大人に力がなくなってきているんですよ、継続性がないから。やはり1年やめた、2年やめた、3年やめたとなると、今までのことがつながってこないんですよ。そういう地域力しかないのに、地域に戻すというのは、ちょっとなかなか今の時期では難しいなという思いを持っております。令和5年から7年までというから、もう少し時間はあるにしても、その付近が少し不安を持っています。

それから、実は日曜日に、熊本城ホールのシビックホールで、熊本市政令10周年記念というのがありました。皆さんご存じかどうかわかりませんが、今、熊本市は、五つの地域に、文化協会をつくらうという話が進んでいます。中央区、東西南北、五つですね、文化協会をつくらうという話が進んでいます。私は南区に住んでいまして、南区のほうが一番率先してやっています。5

年間ぐらい、地域文化の予算が出まして続けていました。それが発展して、今度は、さっき言いましたように地域に文化協会をつくろうという話になっているんですよ。

それはとてもいいことなんですが、日曜日の、政令市の10周年の中では、他の地域もいろんな事例が出てました。白川の河川敷で、夜市みたいなこともやっているみたいですね。そんな成功例がいっぱい出ていたんですよ。面白いなと思って聞いていました。

だから、地域によっては活性化されているところもあるんだと思うんですけど、なかなか、例えば、中央区に文化協会をつくっても、どうやってやるんだろうとか、あと東区も西区も、多分なかなか難しい。北区には植木がありまして、割と進んでいるんです。北区と南区は、割と進んでやっています。率先してやろうかなというふうに思っているんですけど、そういう地域力が、今、そんなに活発じゃないと思っています。そういう中で、頑張っていかなきゃならないというのは非常に難しいかなと思います。以前、学校に勤めていたんですけど、それこそ昭和の時代は、学校と家庭と地域力と言っていましたよね。先ほど言いましたように、地域なんですよ、地域力が随分落ちてるんですよ。さっき出ましたように少子化も含めて、近所にいる子どもの顔を知らないんですよ、皆さんが。知らない子どもに対しては、なかなか怒れないですよ。

そういう現状なので、頭の中で、この先どうやってまとめていくんだろうと、ずっと頭の中で今悩んでいます。

それともう一つ、今、熊本市で部活動の話になってますが、市以外のところで、こういう話合いというのは進めていらっしゃるのでしょうか、質問します。

以上です。

【坂下委員長】

最後の質問に関しましては、どなたかいらっしゃいますか。

【金森委員】

熊本市以外は、県の管轄になるかと思いますが、私の知っている限りでは、中体連関係で、荒尾地区とか、それぞれの代表者と話をしますので、南関、荒尾、長洲、その辺が、モデル校としてやっているという話は聞きます。ですから、地域移行ですね。

別件ですけど、今、いろいろご意見ありました。私もちょっと意見を申し上げさせていただいてよろしいですか。お2人のお話で、非常に地域力が落ちているとか、部活動の意義があるということでしたが、私が今までの資料を見て思ったのが、部活動の変遷のところで、保険の補償額が4倍に上がったと、学校安全会、その時ですね、今は日本スポーツ振興センターと言いますが、それが補償額が4倍に上がった。そこで再び学校教育に戻ったということは、クラブチーム、個人で掛けたクラブで保険を掛けた場合、同額の補償額があるかというのが非常に疑問なのですが、日本スポーツ振興センターの場合は、国からの補助がかなり入っています。ですから、生徒1人、500円ぐらい払うんですかね今、それを掛金としてするんですが、それプラス国からの補助金が入っているので、当然、補償額が多くなる。万が一亡くなった時、日本スポーツ振興センターでは、学校教育活動内であつたら、死亡の時は3,000万。そして、PTA共済のほうで、同じく、学校行事で亡くなった場合3,000万、合計合わせれば6,000万ぐらいの補償があるというふうに私は記憶しています。それが一般的な保険で、地域クラブに移行した場合、それだけの補償額が出るかというのがちょっと一つ疑問です。

それと、いろいろお話を聞きながら、私は前回も言ったんですが、地域に移行するのではなくて、できる範囲での部活動を継続して、何校か寄って、合同部活動という形でやってはいかがでしょうかという話をしたと思うんですけど、そしたら、先生たちも、中学校で30%、小学校で10%やりたいという先生たちがいるわけですから、その人材を活用して、そして、工夫しながら、部活動としてやってはどうかと思います。

そして、アンケートの結果であるように3,000円ぐらいの保護者の負担を、やっぱり保護者が一番望んでいるので、それ以上の負担、いわゆる、先生たちが、時間外で指導する時間の指導費というのは、私は行政が負担すべきだと思います。

というのは、今まで教員が無償で働く、教員の無償のボランティアというか、土曜日曜は部活動手当というのが出るのですが、平日は全く出ない現状、今もそうです。そういう現状、1時間2時間したら出ない。土曜日曜は、出ます。ですからその平日の部分の時間外手当を、やはり、それを50年60年ずっとそのままにしてきた仕組みがあるわけですから、それを今度は保護者に負担させるのかというのは、私はいかななものかと思います。ですから、その部分についてはしっかり、行政、国が、その分を負担すべきだと私は思います。すると、保護者の負担もなく、やりたい教員がやれる。子どもの活動はそのままできる。今までその校区だけの移動だったのが、隣の校区に行かないといけないかもしれません。ただ、遠方に行く必要はなくなる。いろんなことを考えると、やっぱりそれが一番現実的ではないかなと思います。

それともう一点、来年度の日本中体連の大会から、行政が主導した合同チームが出場出来ますというふうに規定が変わります。ですから、私としては、今、熊本市教育委員会にある、合同運動部という規定を、若干改善して、拠点校型の合同運動部が出来ないか、合同部活動が出来ないかというふうに思っております。一意見です。

以上です。

【坂下委員長】

ありがとうございます。

今、たくさんのご意見をいただいております。地域移行ありきではなく、熊本でのというような考え方をつくっていかうというのが、前回も出ておりました。それで、意義につきましても、もっと熊本のことを考えていくべきであると思いますし、また、地域、そして、校長先生のほうからは、前回もいただきました合同というようなご提案も出ているところでございます。

他にご意見等ございませんでしょうか。

【平木委員】

先ほど、坂本委員がおっしゃったように、今のこの時期にというのはちょっと無理があるというのわかります。平江委員がおっしゃった、コロナで祭りもない、地域の文化祭もなかなか出来づらい。私も彫刻家で、県美協会、美術家連盟の会員ですが、展覧会を毎年、開催をどうすべきか、総会までの役員会で随分審議してきました。でも、今少しずつ、開催にこぎ着けております。熊本県図画工作美術教育研究会主催「くまもと・子どもの美術展」も本日から3年ぶりに、美術館の分館で開催しております。

そのように、少しずつ平常の状況に戻りつつあります。県文化懇話会でも若手人材を会員にするためいかにするかという話合いがありました。

だから、移行をしていきながら先ほど金森校長先生がおっしゃったように、今の出来ることも大事にしながら、でも、このような会を重ねていきながら、地域がどう部活動ということではなくて、地域体育であったり地域文化であったり、広げていくかというのを考えていくのはとても有意義だと思います。私は、冒頭申しましたように、本当にやっぱり町づくりのほうにも大きな影響になってくると思います。

それから、今、本校は教職員の人員は少ないので、部活動を二つしか出来ません。もう一つ増やすならば、1つの部の教職員数を減らすことになり、少数交替の体制となります。結局、残業時間がとても増えてきます。部活動の試合にも行かせなければなりません。残業時間というのが制限されているのは、人間の健康とか精神面の衛生上のことを考えてのことなので、今、学校自体が大変多様なお子さんへの対応で、先生方には細心の注意をはらって、常に生徒たちに目を向けていただかないといけない。そういう状況で、以前の昭和の時代とは違って少子化が進む中、子どもたちをいかに活躍させるか。教え込む教育ではなくて、伴走者として、子どもたちが自発的に、自分の力を身につけていく、そういう環境づくりをします。だから、大変授業研究や準備に時間がかかるんです。

このような会を重ねながら、子どもたちが自分で町に飛び出して行って、生徒指導はもっとおおらかに考えれば、そんなには、問題は発生しないですよ。子どもたちがしたい体育・文化活動をするなら、自然とルールも守らないといけないというのはわかってくるし、そういう活動の場を、いろんなところから、皆さんで用意していただくと、子どもたちは安心安全に自分のしたいことが出来ます。

本校の不登校の子どもも、地域体育には参加しています。そして、そこで自信をつけていて、自分は全日制のこの高校に行こうかなと考えだしています。学校だけではもう背負い切れないところまで来ています。今は急な展開は難しいけれども、少しずつ皆さんで考えていていただきたいなと思っていますところです。

私は新たな仕事創出にも絶対つながってくると思います。三方良しが何事もうまく持続可能に行くところだろうと思うので、ここは知恵の出しようだなと思っていますところです。

【坂本委員】

教職におられる先生方や校長先生方は、やはり教員の働き方改革というのが、まず中心にあるように考えます。仕事がふえたら時間外に対応するというような発想なのですが、先ほど例を申しましたように、トラック運送は、時間外労働が制約されるので、人を増やすことになります。人を増やすということが今、熊本県内、全国でトラック運送に求められている。また、熊本県内は、人を増やさざるを得ない工場が、今から先いっぱい出てくる。そういう意味からして、新しい仕事生まれるのはありがたいのですが、人の取り合い状態で、今はなかなか地域で、何か新しい仕事を行うということが難しく、人を確保するにはお金が非常にかかるということです。

だから、学校から外に出したら安くなるとか、ボランティアでやれるという幻想は捨てて、学校の中で人材を抱えて、ちゃんとお金を税金で出してやったほうがよっぽど安く済むと私は思っています。

【富田委員】

前回も同じような意見を言いましたけど、今熊本市は小学校区でいうと92校あります。その中

で、地域総合型スポーツが行われているのは21です。今申請中のクラブが2つあるようで、それが認められたとしても23しかない現状です。地域に返すと言っても、受皿自体が難しい。サッカーやバスケットなど、民間で会費をもらってやってやられているクラブはそれぞれの種目であると思いますが、学校で部活動をしなくなるからその受皿を地域でと言った場合には、地域総合的なものになるのかなと思います。しかし、その受皿となるものは今、熊本市では25%程度しかない現実があります。

地域に返すということは、何も総合型クラブだけではなく、一般クラブも含めてだとは思いますが、現状の中で、働き方改革の名のもとに学校から地域に返すことだけが優先されていくのが、非常に不安という心配をしています。それはなぜかというと、私もずっと部活動に関わってきましたけれども、部活動で何を学ばせるかというのが学校部活動の狙いだと思います。運動を強くするだけではなくて、部活動をとおしてその学校が、何を子どもたちに学ばせていくかということを考えていると思います。その目的を達成するために、学校の中で、私も昔、部活動主任をしたときに指導者不足で、「先生お願いします」と頭下げて回って、担当してもらった記憶があります。

指導者不足という部分については、教育委員会としても、協力してもらえる人に指導者の登録制度を利用する制度がありましたよね。しかし、なかなか活用が出来てない状況もあってと思います。昔の部活動が社会体育に移行した時も学校部活動みたいでしたという話もありましたが、外部指導者の方もおられました。ですから、外部指導者のような形で指導していただける人に学校に来て指導していただいて、先ほど金森委員からありましたけれども、その分については何かしらの費用弁償というか、指導費として、学校からは予算がありませんので、行政のほうから出していただくなど、そのような形で、地域の受皿ができるまでの間は進めていくのはどうかなというような気がします。

【竹下委員】

論点についてですが、先ほど地域行事への参加や部活動などが混在しているので、今は部活動をどう今後持続可能にするかというところを、検討していったほうがいいのではないかなと思います。いろいろな学校の子どもたちが、地域で行事に参加する機会を設けて取り組んでいくことは、皆さん共通に思われることだと思います。その中で、今行っている文化部活動や運動部活動を地域の中と、あるいは学校で持続化をするためにどうするかということに論点を絞るほうがいいかなと思います。地域の行事と部活動などごちゃごちゃになっていくとなかなか論点が絞れず、見えにくくなるのではないかなと思うので、そこを確認いただけたらいいかと思います。

それともう一つ、今後のスケジュールを書いてありますが、先ほどご意見があったように、地域移行の前提があるようなスケジュールになっていたのもう一度よく確認いただいて、検討していただけたらありがたいなと思います。

【西島委員】

今の竹下委員の意見に賛成です。中学校部活を地域移行という形でなくて、どうしたら、地域も含めてうまく守ってやれるかだと思います。先生たちの今負担も大きいということなので、今うちの総合型スポーツクラブで、中学校の部活動を担えと言われても、指導者の問題が大きく担う自信がありません。

小学校は、楽しくいろんなスポーツを楽しめるようにすればいいので大丈夫ですが、中学校になりますと、ある程度、体力面も、技術的な指導も必要になってきます。そうすると、指導ができる人間も限られており、育てることが必要になってきます。熊本市の人材登録バンクについてもマッチングが出来ない状態で、登録される方も減っていて、そこまでの余力がないというのが実情です。ですから、前回申し上げたように、総合型ができること、それから、スポーツ団体ができること、それから、ロアツツさんのようにスポーツクラブができること、それらを総合して、中学校の部活動を支援していくという形がとれば一番いいかと思います。

もう一点、先ほど、保険の話が出ておりましたが現在、スポーツ安全協会の保険に入っているところが多いのですが、このスポーツ安全協会の保険の補償は、死亡が2,000万円、入院が1日4,000円、通院が1日1,500円です。学校の保険より補償額がかなり安い額です。私たちのクラブはこのスポーツ安全協会の保険に入らず、民間の保険を使っています。なぜかというと、スポーツ安全協会の保険は、個人が怪我した分にはかけている本人に出ますが、指導者や運営側に過誤があった場合の保険適用はありません。スポーツ安全協会の保険でも、NPOなど法人格を持っているところは別に法人責任保険がかけられますが、熊本市の総合型でNPO法人となっているのはスポレクエイトと桜木など5か所だけです。ほとんど皆さんボランティアで地域の子どものために、いろんなスポーツの機会をつくるということでやっている所以法人格はもちません。その辺も問題があります。前回、吉田委員も危機管理の話がされましたので、そこも含めて検討してほしいです。

また、教育委員会の方に申し訳ないのですが、小学校の部活動を受けている中で、保護者の方が立ち上げているものがかなりあります。そこが危機管理を出来ているかどうかというのが非常に不安です。

龍田小学校も同じように、サッカーは私たちが受けました。保険などもかけています。ただ、野球とバレーボールの二つについては、保護者の方たちが立ち上げられて、指導者を探されて、校区体協のほうが、一応受皿になってはいますが、校区体協はそのような能力はありません。南関などの地域はスポーツ協会がしっかりしていますが、熊本市の校区体協というのは、校区でスポーツを通じた親睦のような形でしか活動をしていません。仮に中学校から離れたとしても、保険関係など危機管理面のことを考えると心配です。子どもたちのことなので、その辺りもしっかり考えてほしいと思います。

【坂下委員長】

大変貴重なご意見ありがとうございました。会議の進め方に関しましても、今いただきました意見を踏まえて、今後整理させていただきたいと思っております。

【金森委員】

すいません、最後に確認だけいいですか。1回目の議事録が出来ていますが、ホームページ等で公開はされますか。また、この議事録を、各中学校の校長に配付しても構いませんか。

【松永学校改革推進課長】

ホームページで公開しております。この審議は公開ということで開催させていただいておりますので、その議事録を、各中学校の校長に配付していただいても全く構いません。

【金森委員】

もう1点、今回取りました保護者、生徒、教員へのアンケートの結果も、どこかで公開されますか。アンケートを取った人に返す必要があるかと思います

【松永学校改革推進課長】

アンケートの結果も公開いたします。私たちとしても先生方にも是非ご報告したいと思っています。

【坂下委員長】

本日、予定しておりました、小学校部活動における地域移行の検証につきましては、次回に回させていただきます。

今後、会議の進め方も、もう少しスムーズにいきますように、努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本当に貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、時間となっておりますので、ここで本日の議論は終了させていただきます。次回も、この委員会で出された意見などをもとに、今後の取組の方向性を整理して、提示させていただきますと思っています。

後日お気づきになられたことがございましたら、教育委員会事務局学校改革推進課のほうにご相談ください。

なお、本会議の議事録につきましては、事務局にて作成の後、委員の皆様へ送付されますので、ご確認いただきますようお願いいたします。その後、私のほうで最終確認し、確定させていただきます。

本当に様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。それでは、進行を事務局のほうにお返しいたします。